

きょう と し た ぶん か し さ く し ん ぎ かい 京都市多文化施策審議会 ニュースレター No.15



京都市

へんしゅう きょうと し た ぶん か し さ く し ん ぎ かい じ む きょく きょうと し そ う ご う き か く きょく こ く さい か す い し ん し つ
編集：京都市多文化施策審議会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）

2015（平成27）年3月発行

2014（平成26）年度 第2回会議を開催



<日時> 2014（平成26）年9月9日（火）午前9時30分から11時30分まで
<場所> 京都市役所
<議題> 外国籍及び外国に文化的背景をもつ子どもたちへの教育面でのサポートについて

近年、留学生や医療・福祉に従事する人材の受入れに伴い、中国やフィリピンなど諸外国からの児童・生徒の増加が著しく、日本語学習など教育面でのサポートが重要となっています。このため、第2回会議では、京都市教育委員会及び「フィリピン系の子どもたちと学ぶ会」（フィリピン系の子ども達の学習サポートなどをする団体）から取組報告を受け、意見交換を行いました。



報告1 教育委員会からの報告

「外国にルーツをもつ子どもたちの受入れについて」

京都市教育委員会からは、京都市小中学校での受入体制についての報告を受けました。日本語指導については、2014（平成26）年度から教育課程内での取組が可能となり、「特別的教育課程」（※）としての指導を開始したこと、同課程修了後は日本語指導ボランティアによる指導を課外で行っていること、保護者向けの通訳ボランティアや授業中の子どもたちをサポートする学生ボランティアが活躍していること、中学校卒業後の進路について情報交換会を行っていることなどについて、報告を受けました。

※「特別的教育課程」による日本語指導は、児童生徒が学校生活を送る上や教科等の授業を理解する上で必要な日本語の指導を、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行う教育の形態。



報告2 「フィリピン系の子どもたちと学ぶ会」からの報告

「フィリピンにつながる子どもと親 サポート実践の報告～京都市でいま、考えたいこと～」

近年、フィリピン系の子どもが増加しているなか、同会からは、日本語学習支援をはじめ、来日後すぐの適応支援や保護者のための通訳、大学の支援グループとの連携などを行ってきたことに加え、文化適応や言葉の問題、国籍による教育格差など、様々な課題があることが報告されました。

同会からの意見として、以下のものが挙げられました。

- ・ 高校進学率の実態把握、高校入試の多様化の議論が必要である。
- ・ 国際理解教育については、海外のことや世界のことを学ぶだけではなく、日常的に外国人と暮らしていくことについての理解を進めていただきたい。
- ・ 京都の強みであるまちづくり活動の一環として、日本語教育活動を推進していただきたい。
- ・ 外国人通訳ボランティアなど、支援する方に対する処遇改善や理解を進めていただきたい。
- ・ 日本人がやさしい日本語を使うよう努めていただきたい。

各委員の意見

○ 今後、新たに京都に住む外国人の子どもがますます増える事が予想される。このため、学校の教育制度からはみ出る部分は、地域との連携などの体制を作ることが必要であると思う。

○ 日本語指導に関しては、充実してきているようだが、依然として様々な手法を用い、行政や地域、そのほかの機関などと連携をしていく必要性がある。

○ 外国人を支援する人を大切にする事は重要であるが、支援してくれる人に依存しているだけではいけない。

○ 留学生が集まるような拠点があれば、外国にルーツを持つ子どもたちも来日後の不安などについて母語で話をしやすいのではないかと思う。

2014 (平成26) 年度 第3回会議を開催

<日時> 2014 (平成26) 年11月13日 (木)

午後2時30分から4時30分まで

<場所> 本能寺文化会館

<議題> 多文化共生を推進する人材の育成について



がいくせきしんとう がっこう ちいき がいこくじん し えん ちいき
 外国籍市民等と学校や地域などをつなぎ、外国人コミュニティや外国人を支援するなど、地域で
 たぶん かきょうせい とりくみ すず なに じんざい いくせい こんご
 の多文化共生の取組を進めていくうえで、ネットワークづくりを担う人材の育成は、今後ますます
 じゅうよう おも
 重要になっていくと思われます。

だい かいかい ぎ こうざい きょうと し こくさいこうりゅうきょうかい じんざい いくせい ほうこく
 第3回会議では、(公財)京都市国際交流協会からボランティア人材の育成についての報告と、
 きょうと し ふし み せいしゅうねんかっどう たぶん か かん じぎょう とお じんざい いくせい とりくみほうこく
 京都市伏見青少年活動センターから多文化に関する事業を通しての人材育成の取組報告をいた
 い いん みなさま いけんこうかん おこな
 だき、委員の皆様で意見交換を行いました。



報告1 「kokokaボランティア人材育成事業について」

(公財)京都市国際交流協会からの報告

どうきょうかい しゅるい かつどう やく とうろく ないよう じたく
 同協会では、13種類のボランティア活動に約460人が登録しており、その内容は自宅ででき
 かつどう がいくご しよう たき へいせい ねん ど じん
 る活動から外国語を使用するものまで多岐にわたっています。2014(平成26)年度からは人
 ざい れんけい もくてき じんざい いくせい じぎょう かいし
 材のスキルアップ、連携を目的に、「ボランティア人材育成事業」を開始しました。



報告2 「多文化共生を推進する青少年の人材育成について」

京都市伏見青少年活動センターからの報告

どう たぶん かきょうせい すいしん せいしゅうねん じんざい いくせい ほうこく
 同センターでは、これまでから多文化共生をテーマに活動を行ってきました。柱となるのは、外
 こくせき かた しゅたい かが い ぶん か こうりゅう にほんご
 国籍の方も主体となって関わる事ができる「異文化交流サラダボウルプロジェクト」や、日本語
 ほご かつ たぶん かきょうせい かに にほんご がくしゅう し えん おこな しせつりよう
 を母語としない方へボランティアの方が日本語学習支援を行う「にほんご教室」であり、施設利用
 をきっかけとした活動の広がりなどにより、人材育成を進めています。

各委員の意見

○ 多文化共生の推進を自らの仕事とした
 り、専門とする人材の育成も必要であり、大
 切である。また、一方でこうした人材以外の
 方に多文化共生の意識を持ってもらい、興味
 を持ってもらうことも大切だと思ふ。

○ 就職などを機に活動を辞めていくことも
 あるが、大学生に多文化共生の活動に関わっ
 てもらうことは必要だと思ふ。

○ ボランティアが活動する拠点を増やすこ
 とは重要である。活動拠点が近くにないと、
 参加したい気持ちがあったとしても、忙しい
 社会人や学生は活動になかなか参加できない。

○ 多文化共生を進める上で、大学などの教
 育機関のほか、実際に地域に住む方と共に活
 動をし、問題解決をする自治会・町内会の役
 割は大事だと思ふ。



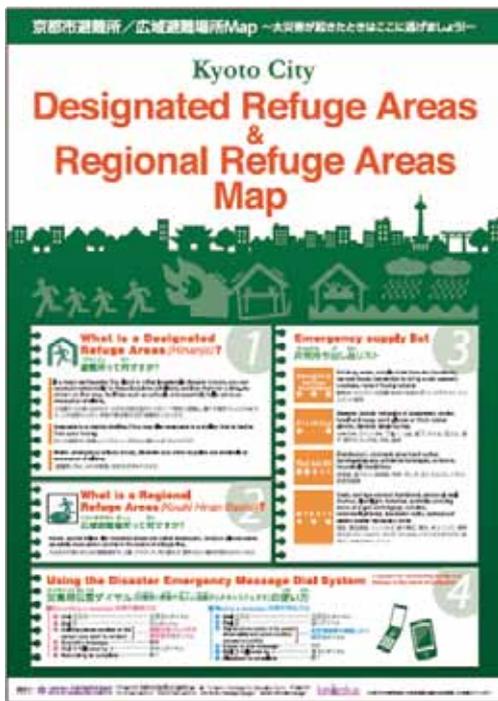
2014 (平成26) 年度 第4回会議を開催

<日時> 2015 (平成27) 年1月26日 (月)
 午後2時30分から4時30分まで
<場所> 京都市役所
<議題> 2014 (平成26) 年度提言について



○第3期委員の皆様 (第4回会議を欠席された2名を除く)

第4回会議では、第1回から第3回会議の意見交換を元に、2014 (平成26) 年度提言について議論を行いました。内容をまとめたものを提言書として京都市長へ提出します。



各区ごとの避難所・広域避難場所 マップが出来上がりました!

災害に備え、広域避難場所を各区ごとにまとめたマップを、(公財)京都市国際交流協会が発行しました。

マップは日本語と英語の併記で書かれています。避難所・広域避難場所のほかに、「非常時持ち出し品リスト」や「災害用伝言ダイヤルの使い方」も書いています。

マップは、京都市国際交流会館、区役所で配布しています。

事務局からのお知らせ

本ニューズレターや審議会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。

(審議会の会議はどなたでも傍聴することができます)

また、審議会ニューズレターのバックナンバーや英語版をご希望の方は、下記までお問い合わせください。

京都市多文化施策審議会事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地 京都市総合企画局国際化推進室

TEL: 075-222-3072 FAX: 075-222-3055 Eメール: kokusai@city.kyoto.jp

ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/somu/kokusai/>

